

# 第3編 西久保Ⅱ遺跡



## 第1章 既往の調査

これまで西久保II遺跡では、昭和62年に長野原町教育委員会によって詳細分布調査が行われたのみで、本調査は今回が最初である。今回の土地改良事業に伴う発掘調査を行うに当たり、平成29年3月に試掘調査が行われた。その際に平安時代の陥り穴や織文土器、陶磁器などが発見され、本調査が行われることとなった。

## 第2章 調査の経過

西久保II遺跡の発掘調査は、平成29年10月5日から開始し、同年12月27日に終了した。

10月5日、草刈りや調査区の設定など準備作業を開始する。

11月1日、発掘調査地点の地権者と周辺の住民に発掘調査開始の挨拶に伺う。11月2日、表土掘削を開始する。畦畔や現道で分割した5つの区ごとに調査を行うこととした。土量の多い北東部の調査を優先することとなった。11月13日、北東部の遺構検出・遺構掘削を開始する。11月20日、空中写真撮影を行ない、北東部の調査が終了した。同日、埋め戻しを開始し、並行して北西部の表土掘削を開始する。

12月1日、北西部・南東部・南西部の遺構検出を並行して行う。12月5日、北西部の遺構掘削作業を開始する。12月11日、空中写真撮影を行う。12月12日、北西部の調査が終了した。同日、南東部・南西部の遺構掘削作業を開始する。12月14日、空中写真撮影を行う。12月20日、南端部のトレンチ掘削を行う。12月18日、残りの北西部・南東部・南西部の埋め戻しを開始する。12月27日、埋め戻しが完了し、発掘調査は終了した。

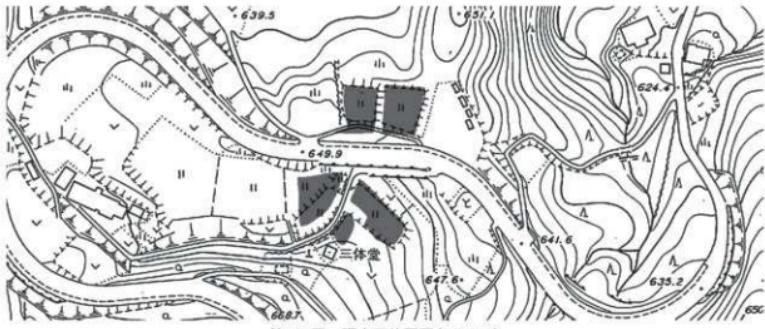
## 第3章 基本層序

今回の発掘調査の基本層序は、第187図のA地点（北東部北壁）・B地点（北西部北壁）・C地点（南東部北壁）・D地点（南西部北壁）の4か所で確認した。

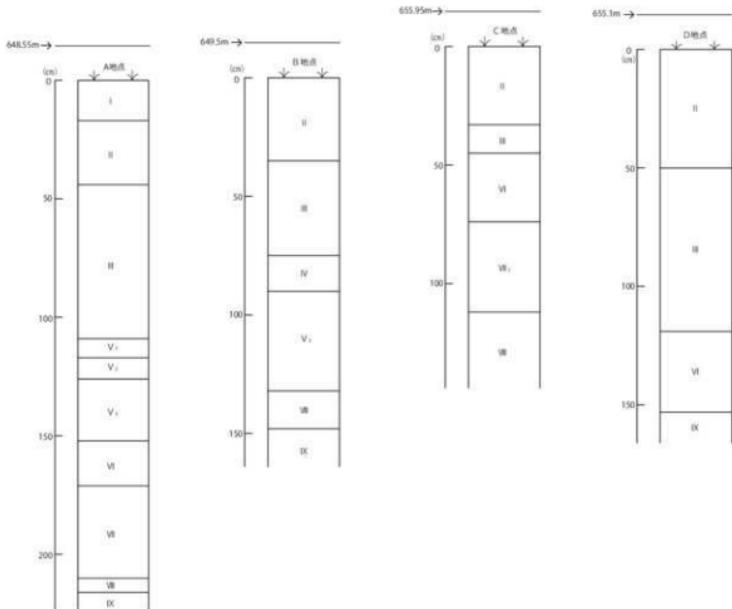
**第I層 暗灰黄色土**：表土である。粘性は弱く、しまりはある。ロームブロック（ $\phi 0.5 \sim 10\text{cm}$ ）を含む。北東部のA地点でのみ確認された。

**第II層 黒褐色土**：表土である。粘性は弱く、しまりはある。白色輕石（ $\phi 0.2 \sim 2\text{cm}$ ）を少量含み、ローム粒（ $\phi 0.1 \sim 0.4\text{cm}$ ）を微量含む。

**第III層 黄褐色土**：埋土である。粘性は弱く、しまりは弱い。ローム粒（ $\phi 0.1 \sim 0.4\text{cm}$ ）・ロームブロック（ $\phi 0.5 \sim 10\text{cm}$ ）を多量に含む。

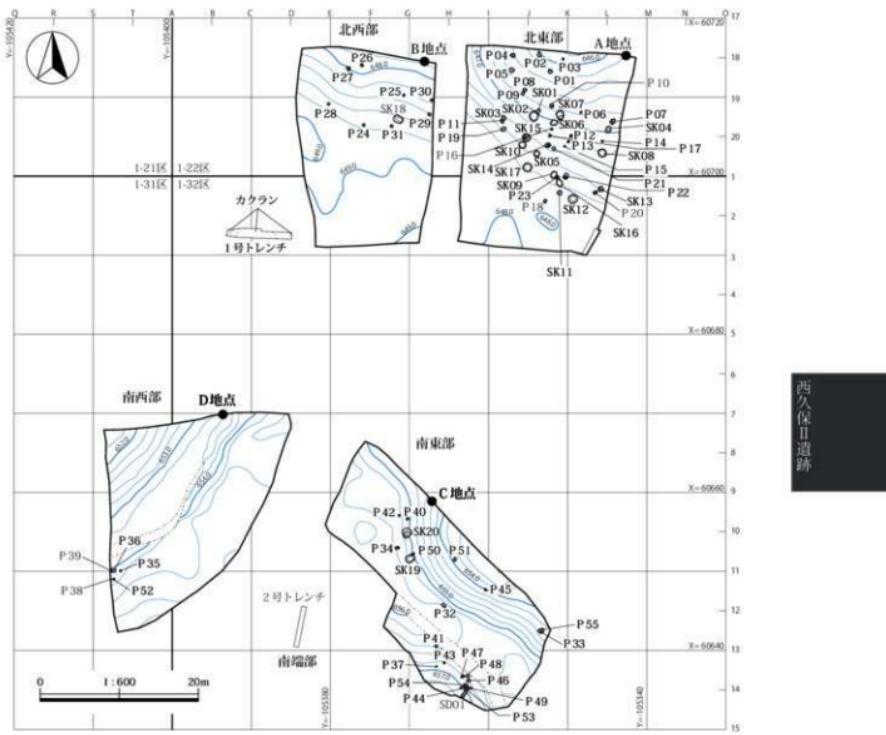


第185図 調査区位置図(1/2,500)



第186図 基本土層柱状図(1/20)

- 第IV層 灰黄褐色土：粘性はなく、しまりはある。YPk ( $\phi$  0.2 ~ 5.0cm)・白色軽石 ( $\phi$  0.1 ~ 5.0cm)を多量に含む。
- 第V<sub>1</sub>層 黒褐色土：粘性は弱く、しまりはやや弱い。白色軽石 ( $\phi$  0.5 ~ 1cm)を少量含み、炭化物粒 ( $\phi$  0.5 ~ 1cm)を微量含む。
- 第V<sub>2</sub>層 黒褐色土：粘性・しまりともない。褐色土ブロック ( $\phi$  0.5 ~ 10cm)を多量に含み、白色軽石 ( $\phi$  0.5 ~ 1cm)を微量含む。
- 第V<sub>3</sub>層 黒褐色土：粘性は弱く、しまりは弱い。YPk ( $\phi$  0.2 ~ 0.3cm)・白色粒 ( $\phi$  0.2 ~ 1cm)・BP ( $\phi$  0.2 ~ 0.3cm)を微量含む。
- 第VI層 黒褐色土：粘性は弱く、しまりは弱い。ロームブロック ( $\phi$  0.5 ~ 10cm)を含み、YPk ( $\phi$  0.2 ~ 1.5cm)・炭化物粒 ( $\phi$  0.5 ~ 0.6cm)・BP ( $\phi$  0.2 ~ 3cm)を微量含む。
- 第VII層 黒褐色土：粘性は弱く、しまりは弱い。YPk ( $\phi$  0.1 ~ 1cm)・BP ( $\phi$  0.2 ~ 2cm)を少量含み、白色粒 ( $\phi$  0.1 ~ 0.5cm)を微量含む。
- 第VIII層 暗灰黄色土：粘性は弱く、しまりはやや弱い。YPk ( $\phi$  0.2 ~ 0.3cm)・白色軽石 ( $\phi$  0.2 ~ 1cm)・BP ( $\phi$  0.2 ~ 2cm)を微量含む。
- 第IX層 黄褐色土：ローム層である。粘性は弱く、しまりはある。



第187図 調査区全体図(1/600)

## 第4章 検出された遺構と遺物

### 第1節 遺構の概要

西久保II遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字横壁字西久保に所在する遺跡である。吾妻川右岸中位段丘面の南方に立地し、東西をその支流が流れる。南方向に丸岩・菅峰を、北には王城山を望む。南から北に向かって下る傾斜地で、標高は645.8～657.2mである。現況は水田・狩猟地である。調査区のすぐ南側には住宅がある。

今回の発掘調査は西久保II遺跡の第1次調査にあたり。調査範囲は遺跡範囲の東半分にあたり、大字横壁字西久保9-3外に所在する。調査区は国道406号線を挟んで南北方向に広がっており、南東部・南西部・南端部・北東部・北西部の4区に分かれている(図187)。

確認された遺構は、平安時代の陥り穴1基、時期不明の土坑19基、ビット55基、溝2条である。遺構の多くは北東部に集中しており、南西部ではほとんど検出されなかった。北西部・南東部にも遺構は少ないがまばらに分布している。出土遺物の種類は、縄文土器、陶磁器、鉄製品、石器で、その数量はテンバコで0.5箱分であった。

## 第2節 平安時代の遺構と遺物

### (1) 陥し穴

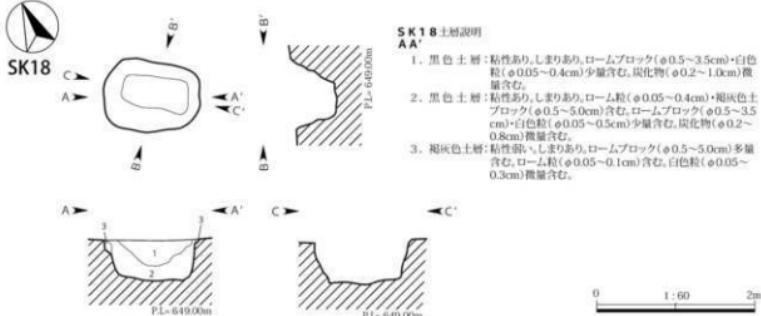
SK18 (第188図／PL 22)

**位置** I-22区F-19 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。

**平面形と規模** 上面形が楕円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸124cm、短軸84cm、深さ55cm。

**主軸方位** N-56°-W **壁面** 下位はほぼ垂直に、上位は外傾して立ち上がる。 **底面** 平坦である。

**遺物** なし。 **備考** 平・断面形状から、平安時代に帰属する可能性が高い。



## 第3節 時期不明の遺構と遺物

### (1) 土坑

形態に特徴がなく、時期を特定し得る出土遺物がないことから帰属時期は不明である。

SK01 (第189図)

**位置** I-22区J-19 **重複関係** SK02と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** SK02に南西壁を壊されている。 **覆土** 暗灰黄色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 隅丸長方形を呈する。規模は長軸68cm、短軸40cm、深さ15cm。

**主軸方位** N-50°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK02 (第189図／PL 22)

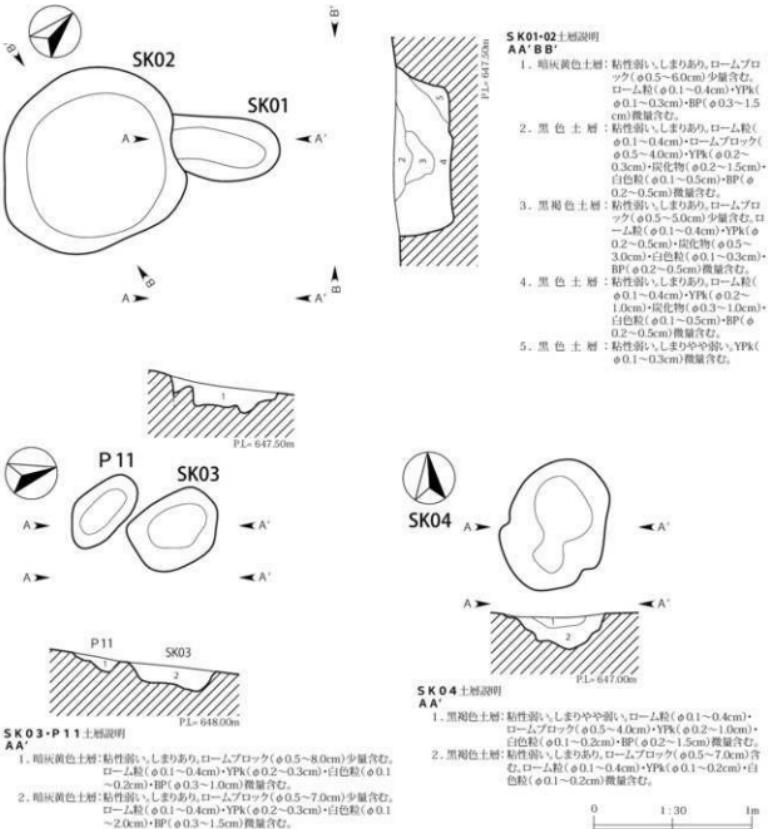
**位置** I-22区J-19 **重複関係** SK01と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸120cm、短軸104cm、深さ37cm。

**主軸方位** N-10°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 橫ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK03 (第189図)

**位置** I-22区I-19 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗灰黄色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸58cm、短軸44cm、深さ14cm。

**主軸方位** N-22°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 北に向かって傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。



第189図 SK01~03・P11・SK04実測図(1/30)

備考 なし。

## SK04 (第189図)

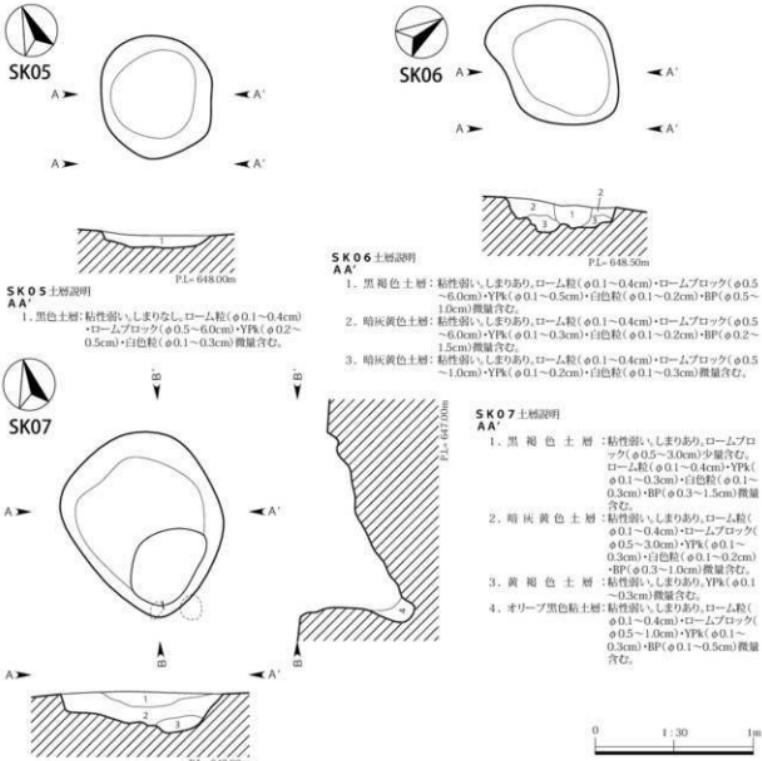
位置 I-22区L-19 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黒褐色土が基準で、人為堆積を示す。

平面形と規模 不整楕円形を呈する。規模は長軸86cm、短軸58cm、深さ20cm。 主軸方位 N-25°-E 壁面 外傾して立ち上がる。 底面 極端に平坦。 遺物 なし。 備考 なし。

## SK05 (第190図)

位置 I-22区J-20 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黒色土が基準で、人為堆積を示す。

平面形と規模 円形を呈する。規模は長軸77cm、短軸70cm、深さ8cm。 主軸方位 N-10°-E 壁面 外傾して立ち上がる。 底面 極端に平坦。 遺物 なし。 備考 なし。



第190図 SK05～07実測図(1/30)

## SK06 (第190図／PL 22)

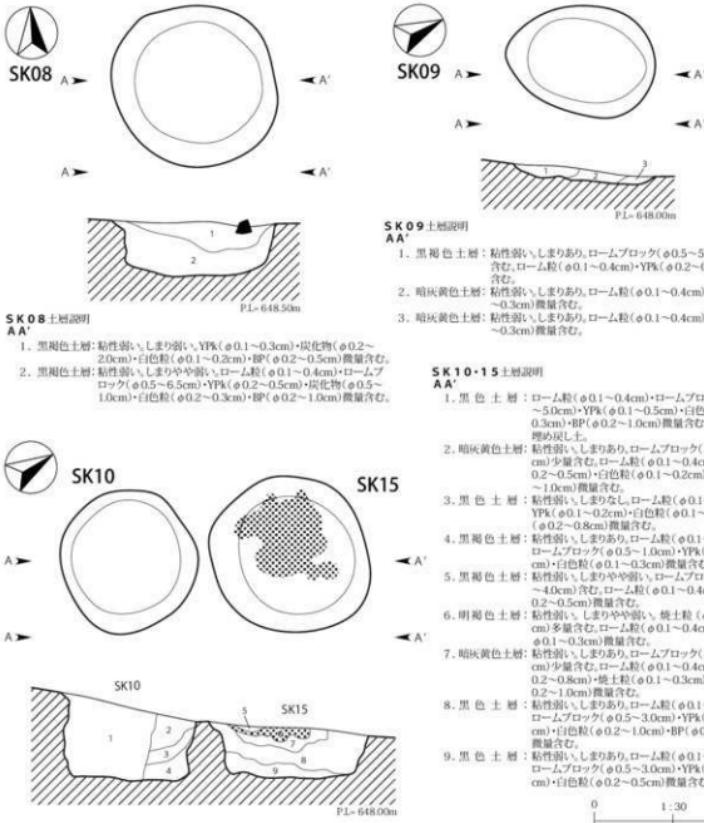
位置 1-22区J-19 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 暗灰黄色土が基調で、自然堆積を示す。 平面形と規模 不整円形を呈する。規模は長軸80cm、短軸68cm、深さ20cm。 主軸方位 N-74°W 壁面 外傾して立ち上がる。 底面 凹凸がある。 遺物 なし。 備考 なし。

## SK07 (第190図／PL 22)

位置 1-22区J-19 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 暗灰黄色土が基調で、自然堆積を示す。 平面形と規模 上面形が卵丸長方形、下面形が不整梢円形を呈する。規模は長軸118cm、短軸98cm、深さ72cm。 主軸方位 N-4°-N 壁面 外傾して立ち上がる。 底面 南東に向かって傾斜する。南端にピット状に斜めに落ち込む。 遺物 なし。 備考 なし。

## SK08 (第191図)

位置 1-22区K-20 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。



第191図 SK08～10・15実測図(1/30)

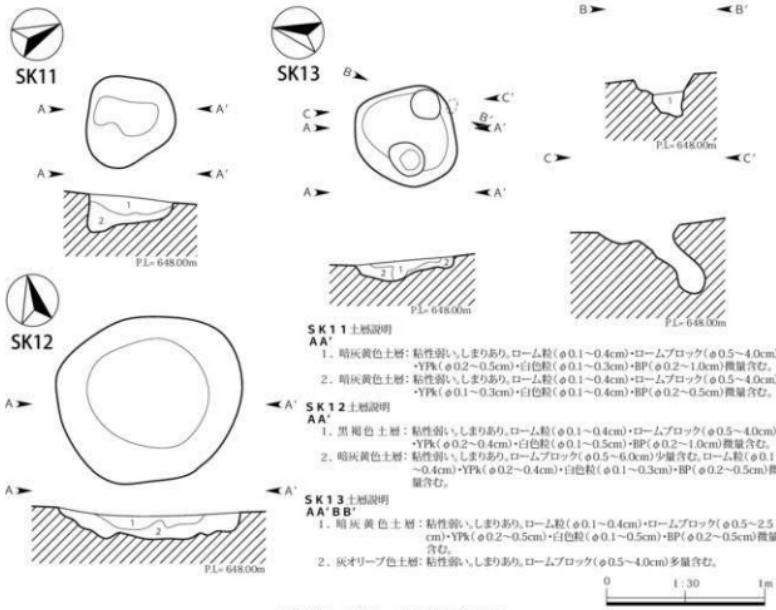
**平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸 109cm、短軸 103cm、深さ 34cm。  
**壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。  
**底面** 盤状を呈する。  
**遺物** なし。  
**備考** なし。

#### SK09 (第191図)

**位置** I-22区J-20 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗灰黄色土が基調で、自然堆積を示す。  
**平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸 94cm、短軸 67cm、深さ 8cm。  
**壁面** 大きく外傾して立ち上がる。  
**底面** 楕円形を呈する。  
**遺物** なし。  
**備考** なし。

#### SK10 (第191図／PL 23)

**位置** I-22区I-20 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。



第192図 SK11~13実測図(1/30)

**平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸 92cm、短軸 87cm、深さ 51cm。  
**主軸方位** N-48°-W  
**壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。  
**底面** 梱ね平坦。  
**遺物** なし。  
**備考** 試掘時に検出された試掘1号トレーナー SK02 と考えられる。形態に特徴がなく出土遺物がないことから帰属時期は不明である。

## SK11 (第192図)

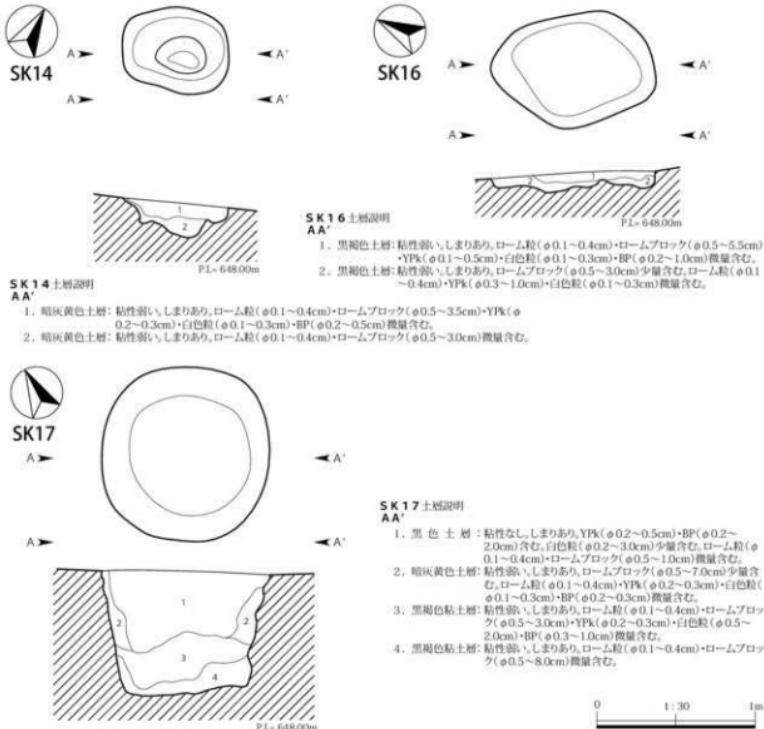
**位置** I-32区J-1  
**重複関係** なし。  
**遺存状態** 良好。  
**覆土** 暗灰黄色土が基調で、自然堆積を示す。  
**平面形と規模** 上面形が不整円形、下面形が不整隅丸長方形を呈する。規模は長軸 58cm、短軸 56cm、深さ 24cm。  
**主軸方位** N-24°-E  
**壁面** 垂直に立ち上がる。  
**底面** 南に向かって傾斜する。  
**遺物** なし。  
**備考** なし。

## SK12 (第192図)

**位置** I-32区K-1  
**重複関係** なし。  
**遺存状態** 良好。  
**覆土** 暗灰黄色土が基調で、自然堆積を示す。  
**平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸 118cm、短軸 106cm、深さ 15cm。  
**主軸方位** N-78°-E  
**壁面** 凹凸がある。  
**底面** 東壁はほぼ垂直、西壁は大きく外傾して立ち上がる。  
**遺物** 黒曜石の剥片が1点出土したが、図示しなかった。  
**備考** なし。

## SK13 (第192図／PL 23)

**位置** I-32区K-1  
**重複関係** なし。  
**遺存状態** 良好。  
**覆土** 暗灰黄色土が基調で、自然堆積を示す。  
**平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸 70cm、短軸 63cm、深さ 44cm。  
**主軸方位** N-20°-



第193図 SK14・16・17実測図(1/30)

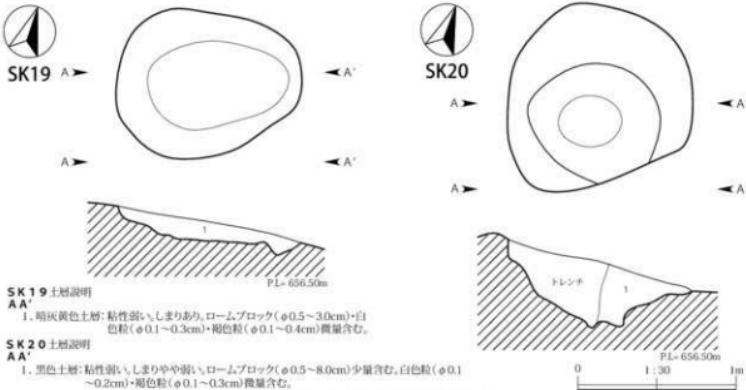
**E 壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** ピット状の窪みが2カ所あるが、窪みのない場所は中央に向かって傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** なし。

#### SK14 (第193図)

**位置** I-22区J-20 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗灰黄色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 條円形を呈する。規模は長軸67cm、短軸48cm、深さ22cm。 **主軸方位** N-65°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** なし。

#### SK15 (第191図／PL 23)

**位置** I-22区I-19 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調であるが、上層には焼土が混合する。人為堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸105cm、短軸99cm、深さ32cm。 **主軸方位** N-68°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 極ね平坦。 **遺物** 岩塗類と考えられる炭化物が出土した。 **備考** なし。



第194図 SK19-20実測図(1/30)

## SK16(第193図)

**位置** I-32区J-1 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。  
**平面形と規模** 不整梢円形を呈する。規模は長軸103cm、短軸72cm、深さ12cm。 **主軸方位** N-18°-W **壁面** 南壁は垂直に、北壁はやや外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** なし。

## SK17(第193図／PL 23)

**位置** I-22区J-20 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸115cm、短軸110cm、深さ79cm。 **主軸方位** N-70°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 北西に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** なし。

## SK19(第194図)

**位置** I-32区G-10 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗灰黄色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 不整梢円形を呈する。規模は長軸119cm、短軸96cm、深さ13cm。 **主軸方位** N-59°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** やや凹凸があり、東に向かって傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** なし。

## SK20(第194図)

**位置** I-32区F-10 **重複関係** なし。 **遺存状態** 西壁を試掘トレンチに壊されている。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 不整円形を呈する。規模は長軸128cm、短軸118cm、深さ42cm。 **主軸方位** N-16°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸があり、中央に向かって傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** 試掘時に検出された試掘3号トレンチSK01である。形態に特徴がなく出土遺物がないことから縛属時期は不明である。

## (2)溝

## SD01(第195図)

**位置** I-32 区 H-13・14 **重複関係** P53・54 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 南側は調査区外にある。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 **規模** 長軸 1.9 m 以上、短軸 44 cm、深さ 28 cm。 **主軸方位** N-29°-E **遺物** なし。 **備考** 出土遺物がないことから帰属時期は不明である。

#### SD02 (第 195 図)

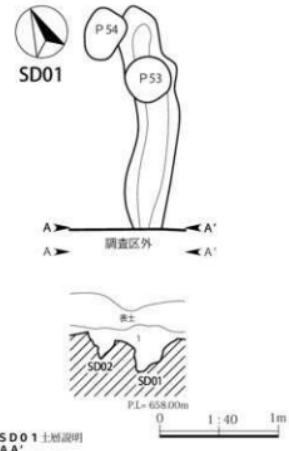
**位置** I-32 区 H-13・14 **重複関係** なし。 **遺存状態** 削平されており現存しない。調査区南壁の断面にのみ痕跡を残す。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 **規模** 長軸不明、短軸 30 cm、深さ 22 cm。 **主軸方位** 不明。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物がないことから帰属時期は不明である。

#### (3) ピット (第 25 表)

今回の発掘調査では、ピットは 55 基確認された。検出されたピットのうち、多くが調査区の北東部と南東部に集中しており、北西部と南西部にはほとんど検出されないと分布に偏りが見られた。列状に並ぶものは確認されなかった。遺物を出土するものも見られなかった。全てのピットの平面形や規模などの情報は、第 25 表に記載した。

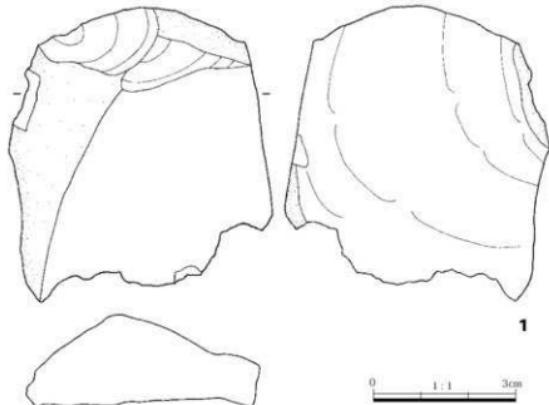
#### 第 4 節 遺構外出土遺物 (第 196 図 / 第 26 表 / PL 23)

遺跡全体で見ても出土遺物は 31 点と少なく、遺構内の遺物も堅果類や黒曜石の剥片がわずかに出土したのみである。遺物の種類は縄文土器、現代の鉄製品、近現代の陶磁器などで、近現代の遺物が多い。中でも特筆



第 195 図 SD01 実測図 (1/40)

西久保 II 遺跡



第 196 図 遺構外出土遺物実測図 (1/1)

第25表 西久保Ⅱ遺跡ピット観察表

遺構名	位置	平面形	規模 (cm)	覆土	備考	遺構名	位置	平面形	規模 (cm)			覆土	備考
									長軸長	短軸長	深さ		
P01	1-22 区 J -18	円形	52 43 15	D		P29	1-22 区 D -19	円形	36	34	15	C	
P02	1-22 区 J -17	不整楕円形	62 40 10	D		P30	1-22 区 D -19	円形	36	34	7	C	
P03	1-22 区 J -17	圓丸長方形	30 20 18	B		P31	1-22 区 F -19	橢円形	38	30	12	C	
P04	1-22 区 I -17	不整形	60 50 12	D		P32	1-32 区 G -11	橢円形	60	30	15	A	
P05	1-22 区 I -18	不整円形	60 40 12	B		P33	1-32 区 I -12	不整円形	(34)	56	30	A	
P06	1-22 区 K -19	円形	30 28 95	A		P34	1-32 区 I -10	橢円形	50	32	14	D	
P07	1-22 区 L -19	不整形	70 40 18	A		P35	1-31 区 S -10	円形	26	20	16	D	
P08	1-22 区 I -18	不整円形	50 30 27	A		P36	1-31 区 S -10	不整円形	40	22	8	B	
P09	1-22 区 I -18	不整楕円形	47 40 17	D		P37	1-32 区 G -13	橢円形	24	20	10	B	
P10	1-22 区 J -19	不整形	50 30 13	D		P38	1-31 区 S -11	円形	(26)	(10)	12	B	
P11	1-22 区 I -19	不整楕円形	50 30 10	-		P39	1-31 区 S -11	橢円形	52	(18)	10	B	
P12	1-22 区 K -19	不整楕円形	40 28 23	B		P40	1-32 区 F - 9	円形	32	30	12	B	
P13	1-22 区 K -20	円形	30 27 20	B		P41	1-32 区 G -12	円形	36	32	15	B	
P14	1-22 区 K -20	不整円形	30 24 20	B		P42	1-32 区 F - 9	不整円形	30	20	28	E	
P15	1-22 区 J -20	円形	20 20 10	B		P43	1-32 区 G -13	円形	26	26	12	B	
P16	1-22 区 J -19	円形	32 28 26	B		P44	1-32 区 H -13	橢円形	30	20	26	B	
P17	1-22 区 J -19	不整形	40 28 20	B		P45	1-32 区 H -11	不整円形	34	26	7	A	
P18	1-32 区 J - 1	圓丸長方形	46 32 15	B		P46	1-32 区 I -13	圓丸長方形	44	34	14	B	
P19	1-22 区 I -19	橢円形	60 50 12	D		P47	1-32 区 I -13	不整形	50	22	14	B	
P20	1-32 区 K - 1	不整楕円形	56 40 8	D		P48	1-32 区 H -13	圓丸形	40	38	14	B	
P21	1-22 区 J -20	不整円形	44 40 32	D		P49	1-32 区 H -13	円形	40	30	13	D	
P22	1-22 区 J -20	不整円形	78 50 40	B		P50	1-32 区 I -10	橢円形	32	18	12	B	
P23	1-22 区 J -20,	不整楕円形	60 26 20	B		P51	1-32 区 H -10	橢円形	48	33	17	A	
P24	1-22 区 J -1					P52	1-31 区 S -11	円形	30	26	16	B	
P25	1-22 区 F -18	不整楕円形	38 20 10	C		P53	1-32 区 H -13 -	円形	40	40	38	A	
P26	1-22 区 E -18	円形	40 35 17	C		P54	1-32 区 H -13	不整楕円形	44	30	50	A	
P27	1-22 区 E -18	不整円形	50 47 15	C		P55	1-32 区 I -12	不整円形	46	44	47	A	
P28	1-22 区 D -19	円形	33 30 10	A									

すべきものとして、調査区北壁面から出土した剥片石器1点を図示した。

## 第5章 まとめ

今回発掘調査を行なった西久保Ⅱ遺跡では、平安時代の陥し穴1基、時期不明の土坑19基、ピット55基、溝2条が確認された。

平安時代の遺構は、陥し穴1基が検出されたが、遺構分布のまばらな北西部で確認されている。平・断面形状や覆土から平安時代の陥し穴と考えられる。

その他の遺構は全て縦屈時期不明である。出土遺物も少なく、時期を特定できるような遺物も出土しなかつたため、時期不明とした。土坑やピットは調査区内でも比較的平坦な低地に当たる北東部に集中する傾向があり、斜面地で比較的標高の高い南東部や南西部には少ないという特徴がある。

今回の発掘調査では住居は検出されなかった。陥し穴1基が検出されているため、当地域は居住域ではなく狩猟地として利用されていたと考えられる。近隣に居住していた人々が、狩猟のため当地域を利用していたのであろうか。しかし1基のみが検出され、周辺に陥し穴が全く確認されなかった点からすると、存続期間は短く、あまり積極的に利用されてはいなかったようである。なお、今回の調査区の北東部には調査前に箱罠が設置されていたように、現在でもイノシシやシカなどの狩猟地として利用されていた様子である。近隣では西久保Ⅰ遺跡や西久保Ⅳ遺跡で平安時代の集落が検出されているが、どのように当地域と関わりを持っていたのか、更なる検討が必要であろう。

第26表 西久保Ⅱ遺跡出土遺物観察表

遺構外出土遺物観察表

測定No.	因数No.	測量	法規(高/口径/底径)(cm)	特徴(形態・手法等)	量成	胎土・材質等	色調(外面/内面)	備考
196-1	23	剥片石器類・剥片	長6.2／幅5.3／厚1.9	重畠 57g.	—	安山岩	—	完存。